

科目ナンバリング		U-LAS01 10006 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史II Oriental History II					担当者所属 職名・氏名		非常勤講師 城地 孝		
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	歴史・文明(基礎)			使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2024・後期		曜時限	金5		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
明代中国の廷議と皇帝政治 王朝（・政権）の理念や正統性を体現すべく、時に現実を捨象する形で構築される諸制度と、それとはまったく異なる論理で展開していく社会。相矛盾するこの両者を両立させ、王朝の統治を成り立たせている論理や仕組みとはどのようなものなのか、という問いは、こと中国社会を考える上で、少なからず有効であるように思われます。現代にまで受け継がれる「伝統」的諸要素が確立したと言われる明代（1368-1644）の事例に即して、こうした点について考えることをつうじて、中国社会を考える際の視座を養うことを目指します。 今学期は、明代中国における「廷議」（主だった中央官僚による全体会議）を具体例として取り上げ、そこから見えてくる明朝政治の特質について考えてみたいと思います。											
[到達目標]											
中国の政治・社会について理解を深めるとともに、みずからとは異なる歴史・社会・文化について考える視座を養うこと。 史料にもとづいて議論を構築する歴史学の視座・手法を学ぶこと。											
[授業計画と内容]											
1. 「廷議」とは？（第1回～第3回） 2. 嘉靖二十九年（1550）八月の廷議（第4回～第5回） 3. 王守仁（陽明）の文廟従祀問題（第6回～第7回） 4. 隆慶五年（1571）三月の廷議（第8回～第9回） 5. 覆疏作成のプロセス（第10回～第11回） 6. 「僉同」の意味するところ（第12回～第13回） 7. むすびにかえて（第14回） 期末試験（試験日に行う予定） フィードバック（第15回）											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価（30%）：毎回、講義の最後にコメントペーパーを記入・提出してもらい、その内容を評価します。出席は評価対象としません。 期末試験（70%）：筆記試験を行います。講義でふれた知識および講義内容をふまえた各自の考察度を問う論述問題を出す予定です。 詳細は初回の講義の際に説明します。											
----- 東洋史II(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

東洋史II(2)

[教科書]

使用しない

配布資料にしたがって授業を進めます。詳細は初回授業で説明します。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布資料に記載する形で参考文献を紹介します。講義の前提となる基礎事項を知りたい、あるいは講義内容についてより突っ込んで勉強したいという場合には、さしあたりそれらを手がかりに勉強を進めてください。

[その他(オフィスアワー等)]

担当者への連絡は、各種システム(KLASIS・PandA)からメッセージを送る形でお願いします。